

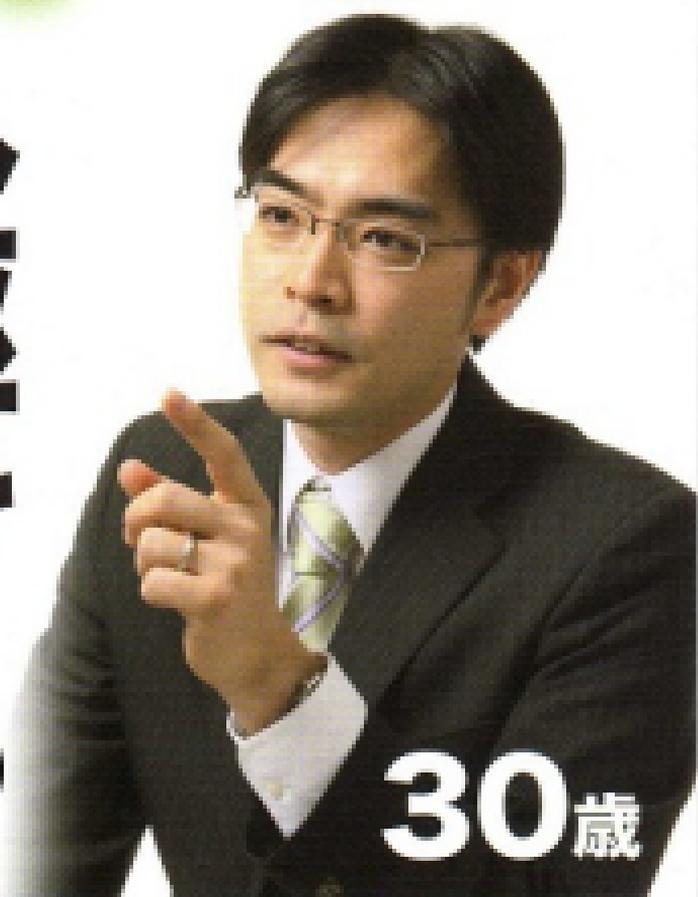
た
な
べ

古賀育ち
元新聞記者

田
辺
か
ず
き

県
政
刷
新

へ
駆
ける



30歳

田辺かずき ただいま活動中!



事務所開き

2月19日に市役所前に開設した事務所で、多くの皆さんから激励をいただきました。

辻立ち・駅立ち

昨年末から、市内各駅やショッピングセンター前でごあいさつさせていただいております。



松林清掃活動

地域環境を守る活動に参加させていただきました。



対話集会

田辺が政策をお伝えすると共に、みなさんの「声」をお聴かせいただく大切な時間です。



地区行事

昨年末、各地で餅つきに参加。地域の結びつきを実感しました。

網田克也さんと

筋を通す——これまでに外務大臣など要職を務められています



松本龍環境大臣と

福岡高校の先輩にお会いしました。

連絡先 田辺かずき後援会事務所

〒811-3103 福岡県古賀市中央1丁目1-50

TEL 092-692-8510 **FAX** 092-410-7730

メール challenge@tanabe-kazuki.jp

田辺かずきをより詳しく

公式ホームページ <http://www.tanabe-kazuki.jp>

ブログ(活動日記) <http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

ツイッター http://twitter.com/tanabe_kazuki

ふるさと古賀から

九州の先端医療都市へ

古賀には大きな医療機関に加え、看護大学もあります。ここに企業誘致の観点を加え、企業への低金利融資や国への特区申請などを推進、医薬品や介護・医療関連企業や研究機関の誘致につなげます。

関西・神戸市には、医療都市の先例があります。九州において、古賀はその潜在的な可能性を持っているのです。

経済戦略は「観光」と結びつけることも欠かせません。古賀には「薬王寺温泉」があります。この資源を活かすことも大切です。



幼い2児の父親をして、第一線の記者生活を投げ打ち、政治の世界へと駆り立てるのは——。

田辺かずぎの政策の原点は、弱い立場の人たちへの共感であり、停滞する福岡が、大阪や名古屋に後れを取っている危機感であり、ふるさと古賀を愛する心です。

温かいハートに、明晰な頭脳と行動力を兼ね備えた若者に、明日の古賀市と福岡県の希望を託したい。私は自信を持って彼を推薦いたします。

田辺かずぎ後援会長 納富 育代

「地域力」の再生

古賀は全国でも地域活動が活発な地域。人と人とのつながりを活かし、高齢者や子どもたちの世代間交流、コミュニティ再生を支援します。



西鉄宮地岳線跡地の有効活用

周辺自治体と連携し、緑地公園化など「憩いの場」となる空間形成に努めます。



古賀は僕のふるさとです。

花鶴小1年生だった1987年(昭和62年)田辺かずぎが描いた絵。地元の鹿部山と、栄えゆく古賀の街並みが描かれています。

「清新！明日の郷土を背負う
貴重な人材に期待」**土師 武**
(元市教育委員長、千鳥)

「先義 後利」
安河内 英一
(福岡高4年生、花見南)

鎌谷 真彦
(医師、千鳥)

濱田 ゆきみ
(花見そらばん教室塾長)

半田 彌喜男
(元市社会福祉協議会長、蕨野)

長野 亮介
(福岡高49回生、今の庄)

平岡 蕃
(花鶴丘3丁目区民)

池田 一空
(幼稚園からの友人、花鶴丘)

荒牧 昭賜
(元古賀中教諭、谷山)

紙谷 由香
(看護師、今の庄)

瀬尾 良子
(元市教育委員、天神)

大岩 元気
(古賀中後輩・元生徒会長、天神)

時田 正彦
(福岡工業大学教授、舞の里)

白水 鉄男・洋子
(花鶴丘3丁目区民)

亀山 恒子
(傾聴ボランティア、花見東)

稲富 卓哉
(小学校〜大学同級生、古賀)

亀山 博生
(亀山整形外科院長)

安武 秀昭
(福岡高19回生、新原)

薄 国彦
(農林業、子供舞多仁和加の指導者、蕨野)

村山 博信
(元教員、米多比)

崎村 光雄
(前市教育委員長、町川原)

常岡 和記
(小学時代からの友人、花見東)

安部 潤子
(元商工会女性部長、天神)

新町 民治
(司法書士、花見東)

田中 泰宏
(東小PTA副会長、久保西)

秦 圭介
(元古賀中PTA会長、館内)

石川 純子
(健康体操指導者、駅東)

葛 行博
(福岡高28回生、花見南)

村山 エツコ
(主婦、米多比)

松尾 浩美
(主婦、花鶴丘)

ふるさと古賀から

九州の先端医療都市へ

古賀には大きな医療機関に加え、看護大学もあります。ここに企業誘致の観点に加え、企業への低金利融資や国への特区申請などを推進、医薬品や介護・医療関連企業や研究機関の誘致につなげます。関西・神戸市には、医療都市の先例があります。九州において、古賀はその潜在的な可能性を持っているのです。経済戦略は「観光」と結びつけることも欠かせません。古賀には「薬王寺温泉」があります。この資源を活かすことも大切です。



世界都市 福岡へ

県議会の仕事は「見えない」と言われます。その原因は、これまでの議員の「怠慢」にあります。政策条例を全く作らず、知事や役所に頼りきり。一方で政務調査費をしっかりと受け取り、飲食やパーティー券購入に充てる——。そんな県議会の体質を私は絶対に許しません。

いま、県議会には、私たちが暮らす地域のルールを私たちで決めるための「地方分権改革」を推進する重要な仕事があります。その先には道州制の実現が控えます。これからの県議には自治体を「経営」する感覚、九州全体を支える経済都市・福岡の未来図(ビジョン)を描く力が求められます。

福岡に近い古賀は、未来図の重要な位置を占める潜在力があります。県議会の改革なくして、古賀、福岡、そして九州の成長はありません。

「地域力」の再生

古賀は全国でも地域活動が活発な地域。人と人のつながりを活かし、高齢者や子どもたちの世代間交流、コミュニティー再生を支援します。



西鉄宮地岳線跡地の有効活用

周辺自治体と連携し、緑地公園化など「憩いの場」となる空間形成に努めます。



古賀は僕のふるさとです。

花鶴小1年生だった1987年(昭和62年)田辺かずきが描いた絵。地元の鹿部山と、栄えゆく古賀の街並みが描かれています。

政策—基本理念

■ 教育・医療・介護を「公共」の重点課題に

福祉政策を推進。子育てを支援し、学力・体力を向上させます。高齢者、障がい者が地域の中で当たり前生きていける社会へ、介護環境の改善、地域医療の課題にも取り組みます。

■ 世界の都市間競争を勝ち抜く経済都市・福岡

道州制を見据え、九州全体を底支える都市を目指します。政府に「経済特区」の実現を強く求め、企業誘致、雇用拡大、農業支援に努めます。経済と観光の総合的な施策を進めます。

■ 県議会改革、市民感覚の反映

知事や行政を厳しくチェックし、対等に政策議論できる県議会を目指します。真の「二元代表制」に向け、議会基本条例を制定します。

■ 地方分権改革を推進、道州制へ

地方のルールは地方で決める。日本全国をひとつのルールで縛る時代は終わりました。地方の議員や首長には霞が関と戦う「政治力」が必要です。橋下徹・大阪府知事とも連携し、分権改革を推進します。

■ 長期展望に立った政治を

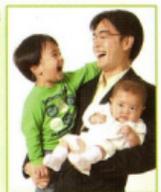
いまの政治家は、目のことにとらわれ過ぎていきます。選挙のため、特定の業界のため、自分の名譽のためだけに動く政治家を、私は許しません。

より詳しくはHPへ。事務所に政策集も置いています。

古賀育ち 30歳 田辺かずきの軌跡

- 1980年 5月16日 田辺一城(たなべかずき)誕生
- 1987年/映の星幼稚園 卒園 古賀子ども劇場会員
- 1993年/花鶴小学校 卒業 第2回古賀町少年の船に参加
- 1996年/古賀中学校 卒業 中学校生徒会長を務める
- 1999年/福岡県立福岡高校 卒業
- 2003年/慶應義塾大学法学部法律学科 卒業 毎日新聞社 入社/福井支局 配属
- 2006年/大阪本社社会部 配属 橋下徹・大阪府知事、大阪府警などを取材
- 2010年/民主党福岡県第4区総支部副代表

- 〔家族〕 妻と一男一女、妻は同い年の会社員
- 〔信条〕 「和を以て貴しとなす」
- 〔好きなスポーツ〕 ラグビー、水泳、テニス、野球
- 〔好きな音楽〕 サザン・オールスターズ、椎名林檎、ドリームズ・カム・トゥルー
- 〔好きな作家〕 夏目漱石、平野啓一郎
- 〔好きな漫画〕 手塚治虫の全作品、
「家裁の人」(原作・毛利基八)、
「博多っ子純情」(長谷川法世)、
島耕作シリーズ



新聞記者の経験から

毎日新聞記者として、約8年間で2500本あまりの記事を執筆。障がい者や高齢者、貧困にあえぐ子どもや支援者、ホームレスの実態を取材し、政治・行政が、人々の「声」に応えていない現実を何度も目の当たりにしました。

橋下徹・大阪府知事の取材を通じ、地方分権改革のうねりの中で、地方が自立しなければ地域の発展も望めないという危機

感も覚えました。

田辺かずきは、みなさんの「声」から始まる政治を目指します。



こんな仕事をしてみました

- ・盲導犬の入店拒否事件を告発
- ・地震や豪雨の要援護者支援のあり方
- ・子どもの貧困の実態を調査
- ・商店主が仕掛けるまちの復興